

# 日本語 ESCP トランスレータ ユーザ・ガイド

---

AA-R4E3B-TE

2002年9月

改訂/更新情報: 改訂ドキュメントです。  
オペレーティング・システム: 日本語 OpenVMS Alpha V6.0 以降  
日本語 OpenVMS VAX V5.5-2 以降  
ソフトウェア・バージョン: 日本語 ESCP トランスレータ V1.1

日本ヒューレット・パッカート株式会社

---

2002年9月

本書の著作権は日本ヒューレット・パッカー株式会社が保有しており、本書中の解説および図、表は日本ヒューレット・パッカーの文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、日本ヒューレット・パッカーは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア(対象ソフトウェア)は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

© 2002 Compaq Computer K.K.

本書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

本書は、日本語 VAX DOCUMENT V 2.1を用いて作成しています。

---

# 目次

まえがき	v
1 日本語 ESCP トランスレータの概要	
1.1 システム概要	1-1
1.2 ハードウェア構成	1-2
1.3 ソフトウェア構成	1-3
1.4 LA88 と日本語 ESCP トランスレータの比較	1-4
2 インストール	
2.1 インストールの前提条件	2-1
2.1.1 動作環境	2-1
2.1.2 インストールにかかる時間	2-1
2.1.3 必要なディスク・スペース	2-2
2.1.4 システム・ディスクのバックアップ	2-2
2.2 インストール手順	2-2
2.3 インストール完了後の作業	2-6
2.4 IVP の実行	2-6
2.5 インストールの例	2-7
2.6 インストールされるファイル	2-9
3 論理名	
3.1 論理名の定義	3-1
3.2 TELNET プリント・シンピオントのための論理名	3-2

4	プリンタ・キューの設定	
4.1	ローカル・シリアルポート・プリント・シンビオント	4-1
4.1.1	キュー・スタートアップ情報の作成	4-1
4.2	LAT プリント・シンビオント	4-4
4.2.1	LAT スタートアップ・ファイルの修正	4-5
4.2.2	キュー・スタートアップ情報の作成	4-6
4.3	TELNET プリント・シンビオント (ターミナル・サーバ)	4-9
4.3.1	キュー・スタートアップ情報の作成	4-9
4.4	TELNET プリント・シンビオント (プリント・サーバ (raw TCP))	4-12
4.4.1	キュー・スタートアップ情報の作成	4-13
5	PRINT コマンドの/PARAMETERS 修飾子	
5.1	PRINT コマンド	5-1
6	日本語 ESCP トランスレータ単体での使用	
6.1	シンボルの設定	6-1
6.2	使用方法	6-1
A	LA88 と日本語 ESCP トランスレータのサポートする制御文字/制御命令の比較	
B	文字セット	
C	トランスレータの初期設定値	
表		
C-1	初期設定値	C-1

---

## まえがき

### 本書の目的

本書は、日本語 ESCP トランスレータの概要、ソフトウェアのインストール方法、および日本語 ESCP トランスレータによる印字方法について説明したものです。「日本語 ESCP トランスレータ」は LA88 ドットインパクトシリアルプリンタの制御コードを ESC/P に変換して OpenVMS から制御コードとして ESC/P を実装しているプリンタ（以下 ESC/P プリンタ）に印刷するためのソフトウェア（プリント・シンピオント）です。

### 本書の対象読者

本書は日本語 ESCP トランスレータの一般ユーザ、およびシステム管理者を対象に書かれています。

### 本書の構成

本書は6つの章、および付録から構成されています。

第1章では日本語 ESCP トランスレータの概要を説明します。

第2章ではインストール方法について説明します。

第3章では指定可能な論理名について説明します。

第4章ではプリンタ・キューの設定方法を説明します。

第5章では PRINT コマンドで指定可能な/PARAMETERS 修飾子について説明します。

第6章では日本語 ESCP トランスレータの単体での使用方法について説明します。

付録では日本語 ESCP トランスレータと LA88 の比較やサポートしている制御文字/制御命令、トランスレータの初期設定値などを説明します。

## 関連資料

日本語 ESCP トランスレータで使用される ESC/P プリンタとターミナル・サーバの操作方法、プリント・シンビオントの設定方法の詳細については以下のマニュアルを参照してください。

- ESC/P プリンタのユーザズ・マニュアル
- ターミナル・サーバのユーザズ・マニュアル
- OpenVMS システム管理マニュアル
- TCP/IP Service for OpenVMS Management
- その他関連するマニュアル

## 表記法

OpenVMS AXP オペレーティング・システムは OpenVMS Alpha に名称が変更されました。

---

### 注意

---

本書では、

OpenVMS VAX	日本語 OpenVMS VAX オペレーティング・システム
OpenVMS Alpha	日本語 OpenVMS Alpha オペレーティング・システム
OpenVMS	上記の両方

を表します。

---

本書では以下の表記法を使用します。

表記法	意味
英大文字	OpenVMS コマンドの名前，ファイル，およびユーティリティは大文字で示されます。しかし，OpenVMS コマンドは大文字で入力しても，小文字で入力してもかまいません。
斜体	斜体は，例の中で適切な単語または値に置き換えなければならない要素を示します。
[ ]	大括弧は構文の中で省略可能な項目を囲みます。
太字	コマンドの入力例などで太字で示された文字は，ユーザが入力する文字です。  例： * Are you ready? <b>Yes</b>
<b>Ctrl/X</b>	例の中で，Ctrl キーを押した状態で，同時に別のキーを押さなければならないことを示します。たとえば， <b>Ctrl/Z</b> と示します。
<b>Return</b>	このシンボルは， <b>Return</b> キーを押さなければならないことを示します。





---

## 日本語 ESCP トランスレータの概要

---

### 1.1 システム概要

日本語 ESCP トランスレータは OpenVMS システムから PRINT コマンドを発行して、ESC/P プリンタで印刷を行うためのソフトウェアです。

OpenVMS で提供されている標準のプリント・シンビオントがサポートしているプリンタと ESC/P プリンタではプリンタの制御シーケンスの違いにより、OpenVMS から ESC/P プリンタに印刷することはできません。

日本語 ESCP トランスレータはこの ESC/P プリンタに印刷できるように制御シーケンスの変換作業を行うので、ユーザは ESC/P プリンタであることを意識せず、通常の PRINT コマンドを発行するだけで印刷することができます。また、PRINT コマンドとして利用できるため、ヘッダ・ページ生成、ページづけ、キュー投入および複数フォーマットの処理などの標準プリント制御機能が利用できます。

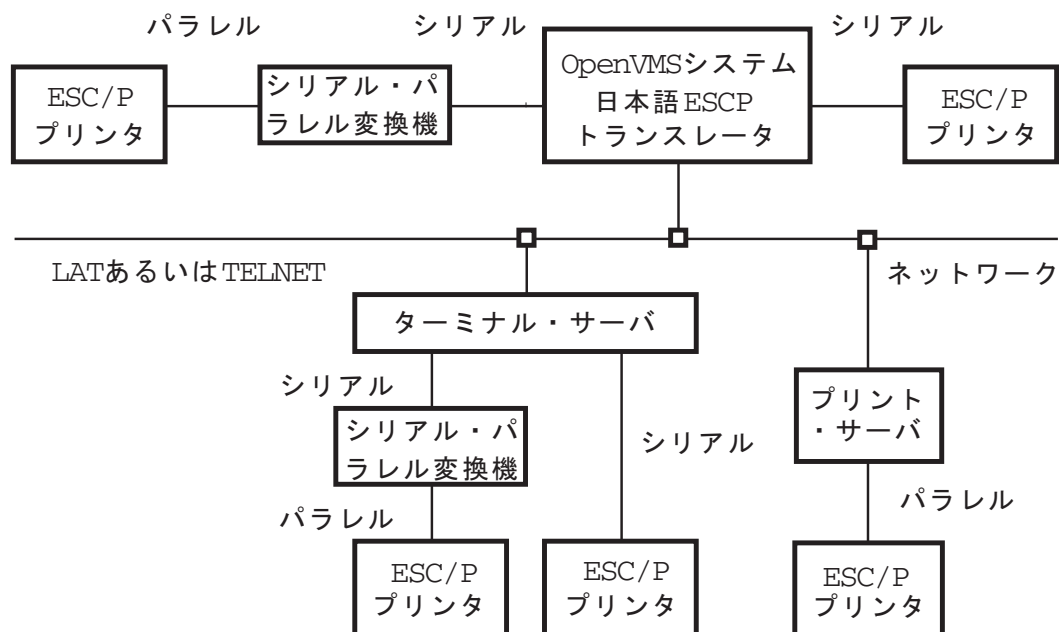
日本語 ESCP トランスレータは LA88 プリンタの制御シーケンスを ESC/P プリンタの制御シーケンスに変換を行います。また、他の LA シリーズのプリンタの制御シーケンスも変換できます。日本語 ESCP トランスレータは ESC/P プリンタのリファレンス機として EPSON VP-1800 を採用し、開発されています。

LA88 との動作の違い、および ESC/P プリンタごとの動作の違いについて『日本語 ESCP トランスレータ リリース・ノート』に記述してありますので参照してください。

## 1.2 ハードウェア構成

OpenVMS システムと ESC/P プリンタは一般的に次のような接続方法があります。

- シリアル・インタフェースを持った ESC/P プリンタを OpenVMS システムのローカル・シリアルポートに接続する。
- シリアル・インタフェースを持った ESC/P プリンタをターミナル・サーバに接続し、OpenVMS システムから LAT または TELNET プロトコルを使用して、ターミナル・サーバ経由で接続する。
- 平行 (セントロニクス)・インタフェースを持った ESC/P プリンタを、raw TCP をサポートする市販のプリント・サーバに接続し、OpenVMS システムから raw TCP プロトコルを使用して、プリント・サーバ経由で接続する。
- 平行 (セントロニクス)・インタフェースを持った ESC/P プリンタを市販のシリアル・平行変換機に接続し、シリアル・インタフェースを持った ESC/P プリンタと同様の接続を行う。



---

注意

ESC/P プリンタやターミナル・サーバの装備しているインタフェースや、ターミナル・サーバで使用可能なプロトコルについては、それぞれの機器のマニュアル等で確認してください。

---

---

注意

ESC/P プリンタをシリアル接続する場合およびシリアル・パラレル変換機のシリアル接続部に接続する場合、データ・フロー制御プロトコルは DSR/DTR を使用してください。XON/XOFF を使用すると、印字データ (バイナリ・データ) 中の XON/XOFF 相当のデータが抜けてしまい、正常な印字結果を得られません。

---

---

注意

ESC/P プリンタは ESC/P J84 に準拠していなければなりません。

---

---

### 1.3 ソフトウェア構成

日本語 ESCP トランスレータは次のモジュールから構成されています。

- プリント・シンビオント

PRINT コマンドで指定されたファイルをトランスレータでの変換作業後 ESC/P プリンタにデータ転送します。プリント・シンビオントは、

- OpenVMS システムのシリアルポートに接続されたプリンタへ印刷するためのローカル・シリアルポート・プリント・シンビオント。
- ターミナル・サーバに接続されたプリンタへ LAT 経由で印刷するための LAT プリント・シンビオント。
- ターミナル・サーバまたはプリント・サーバに接続されたプリンタへ TELNET 経由または raw TCP 経由で印刷するための TELNET プリント・シンビオント。

の3つが用意されています。

- トランスレータ

プリント・シンピオントから呼び出されるモジュールで、LA88 用制御シーケンスから ESC/P へのデータ変換作業を行います。

---

## 1.4 LA88 と日本語 ESCP トランスレータの比較

LA88 と日本語 ESCP トランスレータを比較するために、サポートしている制御文字、制御命令の違いを付録 A に示します。なお、日本語 ESCP トランスレータでサポートされている制御文字、制御命令であっても制限のあるものがあります。制限事項については『日本語 ESCP トランスレータ リリース・ノート』を参照してください。

---

## インストール

この章では、日本語 ESCP トランスレータを OpenVMS Alpha, または OpenVMS VAX システムにインストールする方法について説明します。

---

### 2.1 インストールの前提条件

ここでは、日本語 ESCP トランスレータのインストールの前提条件について説明します。

#### 2.1.1 動作環境

日本語 ESCP トランスレータは以下の環境で動作します。

ソフトウェア	備考
日本語 OpenVMS Alpha V6.0 以降	
日本語 OpenVMS VAX V5.5-2 以降	
日本語 TCP/IP Service for OpenVMS Alpha V3.1 以降	TELNET プリント・シンピオントを実行する場合に必要
日本語 TCP/IP Service for OpenVMS VAX V3.1 以降	TELNET プリント・シンピオントを実行する場合に必要

#### 2.1.2 インストールにかかる時間

システムの構成にもよりますが、日本語 ESCP トランスレータをインストールし、インストール検証プロシージャ (IVP) を実行するには、約 1 ~ 3 分かかります。

### 2.1.3 必要なディスク・スペース

インストール実行中、および実行後に必要となるディスク・スペースは以下のとおりです。

- OpenVMS Alpha システム — 1000 ブロック
- OpenVMS VAX システム — 2000 ブロック

システム・ディスク上で使用可能なディスク・ブロック数を確認するには、次の DCL コマンドを入力します。

```
$ SHOW DEVICE SYS$SYSDEVICE
```

### 2.1.4 システム・ディスクのバックアップ

インストールを開始する前に、システム・ディスクのバックアップを必ずとってください。VMSINSTAL を起動すると、システム・ディスクをバックアップしたかどうか聞かれます。バックアップの際は、各システムのバックアップ・プロシージャを使用してください。

---

## 2.2 インストール手順

日本語 ESCP トランスレータをインストールする方法を OpenVMS Alpha システムにインストールする場合を例にしながら説明します。OpenVMS VAX システムにインストールする場合も、同様の手順です。

インストールは VMSINSTAL で行います。VMSINSTAL は `Ctrl/Y` でいつでもインストールを強制終了できます。強制終了すると、VMSINSTAL はその時点までに作成したすべてのファイルを削除し、処理を終了します。VMSINSTAL コマンド・プロシージャの詳細については、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

インストール中に VMSINSTAL の質問に対して ? を入力すると、その質問に対するオンライン・ヘルプが用意されている場合には、VMSINSTAL はオンライン・ヘルプを表示します。

インストールの手順は以下のとおりです。

1. SYSTEM アカウントなどの特権付きアカウントにログインします。

```
UNAUTHORIZED ACCESS TO THIS SYSTEM IS PROHIBITED
```

```
Username: SYSTEM
```

```
Password:
```

```
Welcome to OpenVMS Alpha V7.3
```

```
Last interactive login on Wednesday, 22-MAY-2002 09:42
```

```
Last non-interactive login on Wednesday, 22-MAY-2002 11:15
```

2. CD-ROM からインストールする場合、MOUNT コマンドを入力して、CD-ROM デバイスをマウントします。たとえば、次のように入力します。

```
$ MOUNT DQA0: ESCJ011
```

```
%MOUNT-I-WRITELOCK, volume is write locked
```

```
%MOUNT-I-MOUNTED, ESCJ011 mounted on _TOKYO3$DQA0:
```

3. VMSINSTAL コマンド・プロシージャを起動します。VMSINSTAL は SYSS\$UPDATE ディレクトリにあります。

```
$ @SYSS$UPDATE:VMSINSTAL ESCJ011 device-name OPTIONS N
```

```
ESCJ011
```

日本語 ESCP トランスレータのセーブセット名。

*device-name*

セーブセットがあるデバイス名。CD-ROM ドライブの場合にはドライブ名の後にセーブセットのあるディレクトリ名も指定します。

```
OPTIONS N
```

リリース・ノートを表示するかどうかを指定するパラメータで、省略可能です。OPTIONS N パラメータを省略した場合には、リリース・ノート情報は表示されません。リリース・ノートには日本語 ESCP トランスレータに関する重要な説明がありますので、必ず内容を確認するようにしてください。

## インストール 2.2 インストール手順

以下の例では、CD-ROM ドライブ DQA0:[ESCJ011.KIT]から OPTIONS N を指定してインストールする方法と、VMSINSTAL からの応答を示します。

```
$ @SYS$UPDATE:VMSINSTAL ESCJ011 DQA0:[ESCJ011.KIT] OPTIONS N
```

```
OpenVMS AXP Software Product Installation Procedure V7.3
```

```
It is 27-MAY-2002 at 11:32.
```

```
Enter a question mark (?) at any time for help.
```

4. システム・バックアップについて確認されます。既にバックアップをとっている場合には、Returnを押してください。バックアップをとっていない場合には、NO と入力し、インストールを中止します。バックアップ後、VMSINSTAL を再起動してください。

```
* Are you satisfied with the backup of your system disk [YES]?
```

5. VMSINSTAL 起動時に OPTIONS N を指定した場合には、リリース・ノート・オプションについて質問されます。

```
Release notes included with this kit are always copied to SYS$HELP.
```

```
Additional Release Notes Options:
```

1. Display release notes
2. Print release notes
3. Both 1 and 2
4. None of the above

```
* Select option [2]:
```

1, 2, 3, 4 のいずれかを選択します。2 または 3 を選択すると、リリース・ノートを印刷するプリント・キュー名についてのプロンプトが表示されます。

```
* Queue name [SYS$PRINT]:
```

そのまま Return を押すと、デフォルト・プリンタにファイルが送信されます。また、別のキュー名を入力することもできます。

なお、リリース・ノートは常にシステム・ヘルプ・ディレクトリ (SYS\$HELP) にコピーされます。



次に、インストールを続行するかどうか質問されます。続行する場合は Yes と入力します。

\* Do you want to continue the installation [NO]? Yes

6. インストール検証プロシージャ (IVP) を実行するかどうか質問されます。IVP はインストールが正常に行われたかどうかを確認するものです。できるだけ IVP を実行してください。

\* Do you want to run the IVP after the installation [YES]?

7. 最後に、インストールをこのまま続行するかどうか質問されます。続行する場合は Yes と入力します。

The installation takes between 1 and 3 minutes, depending on your system and the media you use.

\* Do you want to continue installing Japanese ESCP Translator [YES]?

Yes と入力すると、インストールが続行されます。これ以上質問はありません。インストールおよび IVP が正しく実行された場合には以下のメッセージが表示されます。

%ESCJ-I-DONEASK, No further questions will be asked during this installation.

Adding Japanese ESCP Translator Release Notes ...

%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set C ...

Adding Japaneset ESCP Translator for OpenVMS Alpha images ...

\*\*\*\*\*

This installation will add the following files . . .

\*\*\*\*\*

SYS\$HELP:ESCJ011\_RELEASE\_NOTES.PS (Postscript version of Release Notes)

SYS\$TEST:ESCJ\$IVP.COM

SYS\$TEST:ESCJ\$SAMPLE.TXT

SYS\$SYSTEM:ESCJ\$PRTSMB.EXE

SYS\$SYSTEM:ESCJ\$LATSYSM.EXE

SYS\$SYSTEM:ESCJ\$TELNETSYM.EXE

SYS\$LIBRARY:ESCJ\$TRANSSHR.EXE

%VMSINSTAL-I-MOVEFILES, Files will now be moved to their target directories...

Beginning verification of Japanese ESCP Translator Installation ...

## インストール 2.2 インストール手順

```
Beginning the ESCJ V1.1 Installation Verification Procedure.
```

```
Verifying Japanese ESCP Translator Release Notes ...
```

```
Verifying Japanese ESCP Translator images ...
```

```
The ESCJ V1.1 Installation Verification Procedure completed successfully.
```

8. 以下のメッセージは、インストール・プロシージャが終了したことを示します。

```
Installation of ESCJ V1.1 completed at 11:35
```

```
VMSINSTAL procedure done at 11:35
```

特権付きアカウントからログアウトしてください。

```
$ LOGOUT
```

```
SYSTEM      logged out at 26-MAY-2002 11:37:48.42
```

VMSINSTAL はインストール中に、プロセス・シンボル・テーブルのエントリの削除、または変更を行います。インストール後にシステム管理者のアカウントを使用して、シンボルを元に戻したい場合は、一度ログアウトしてから再度ログインしてください。

---

## 2.3 インストール完了後の作業

日本語 ESCP トランスレータを実行するために第 3 章および第 4 章を参照して、必要な作業を行なってください。

---

## 2.4 IVP の実行

通常、IVP はインストール中に実行しますが、IVP を別に実行することも可能です。問題が発生し、インストールされているファイルを確認する場合には、以下のコマンドで IVP を実行してください。

```
$ @SYS$TEST:ESCJ$IVP.COM
```

---

## 2.5 インストールの例

ここでは、日本語 ESCP トランスレータのインストール例を示します。この例は、次の条件でインストールを実行したものです。条件によってはこの例と異なるメッセージや質問が表示されることもあります。

- OpenVMS Alpha システムにインストールする。
- ユーザがシステムにログインしていない。
- 既にライセンス製品登録キーが登録されている。
- リリース・ノートを印刷するために `OPTIONS N` を指定した。
- `IVP` を実行する。

```
UNAUTHORIZED ACCESS TO THIS SYSTEM IS PROHIBITED
Username: SYSTEM
Password:
  Welcome to OpenVMS Alpha V7.3
  Last interactive login on Wednesday, 21-AUG-2002 09:42
  Last non-interactive login on Wednesday, 21-AUG-2002 11:15
$ MOUNT DQA0 ESCJ011
%MOUNT-I-MOUNTED, ESCJ011 mounted on _TOKYO3$DQA0:
$ @SYS$UPDATE:VMSINSTAL ESCJ011 DQA0:[ESCJ011.KIT] OPTIONS N
  OpenVMS AXP Software Product Installation Procedure V7.3

It is 21-AUG-2002 at 13:25.
Enter a question mark (?) at any time for help.
* Are you satisfied with the backup of your system disk [YES]?
The following products will be processed:
  ESCJ V1.1
  Beginning installation of ESCJ V1.1 at 13:25
%MMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set A ...
  Release notes included with this kit are always copied to SYS$HELP.
  Additional Release Notes Options:
```

インストール  
2.5 インストールの例

```
1. Display release notes
2. Print release notes
3. Both 1 and 2
4. None of the above

* Select option [2]:
* Queue name [SYS$PRINT]:
Job ESCJ011 (queue SYS$PRINT, entry 715) started on SYS$PRINT

* Do you want to continue the installation [NO]? YES
%VMSINSTAL-I-REMOVED, Product's release notes have been moved to SYS$HELP.
* Do you want to run the IVP after the installation [YES]? YES

The installation takes between 1 and 3 minutes, depending on your system
and the media you use.

* Do you want to continue installing Japanese ESCP Translator [YES]? YES
%ESCJ-I-DONEASK, No further questions will be asked during this installation.

Adding Japanese ESCP Translator Release Notes ...

%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set C ...
Adding Japaneset ESCP Translator for OpenVMS Alpha images ...

*****
This installation will add the following files . . .
*****

SYS$HELP:ESCJ011_RELEASE_NOTES.PS (Postscript version of Release Notes)
SYS$TEST:ESCJ$IVP.COM
SYS$TEST:ESCJ$SAMPLE.TXT
SYS$SYSTEM:ESCJ$PRTSMB.EXE
SYS$SYSTEM:ESCJ$LATSVM.EXE
SYS$SYSTEM:ESCJ$TELNETSVM.EXE
SYS$LIBRARY:ESCJ$TRANSSH.R.EXE
%VMSINSTAL-I-MOVEFILES, Files will now be moved to their target directories...

Beginning verification of Japanese ESCP Translator Installation ...

Beginning the ESCJ V1.1 Installation Verification Procedure.

Verifying Japanese ESCP Translator Release Notes ...
Verifying Japanese ESCP Translator images ...

The ESCJ V1.1 Installation Verification Procedure completed successfully.

Installation of ESCJ V1.1 completed at 13:25

Adding history entry in VMI$ROOT:[SYSUPD]VMSINSTAL.HISTORY
```

```

Creating installation data file: VMI$ROOT:[SYSUPD]ESCJ011.VMI_DATA
VMSINSTAL procedure done at 13:25

$ LOGOUT
SYSTEM      logged out at 21-AUG-2002 13:27:48.42

```

## 2.6 インストールされるファイル

日本語 ESCP トランスレータをインストールすると、システム上に次のファイルがインストールされます。

ファイル	説明
SYS\$COMMON:[SYSEXE]ディレクトリ	
ESCJ\$PRTSMB.EXE	ローカル・シリアルポート・プリント・シンビオント
ESCJ\$LATSYM.EXE	LAT プリント・シンビオント
ESCJ\$TELNETSYM.EXE	TELNET プリント・シンビオント
SYS\$COMMON:[SYSLIB]ディレクトリ	
ESCJ\$TRANSSH.R.EXE	トランスレータ
SYS\$COMMON:[SYSTEST]ディレクトリ	
ESCJ\$IVP.COM	IVP
ESCJ\$SAMPLE.TXT	テスト印字用のサンプル・ファイル
SYS\$COMMON:[SYSHLP]ディレクトリ	
ESCJ010.RELEASE_NOTES	テキスト・ファイルのリリース・ノート
ESCJ010_RELEASE_NOTES.PS	PostScript フォーマットのリリース・ノート



本章では、日本語 ESCP トランスレータの各プリント・シンビオントを設定するための論理名について説明します。各論理名の定義は、SYSTEM アカウントなどの特権付きアカウントで行います。

### 3.1 論理名の定義

日本語 ESCP トランスレータプリント・シンビオントに対して、以降で説明するシステム論理名を定義することにより、標準と異なる設定に変更することができます。また、ここで設定できる機能に相当する制御文字や制御命令はありません。

```
$ DEFINE/SYSTEM 論理名 等価名
```

#### 注意

各論理名はプリント・シンビオントの作成前 (INITIALIZE/QUEUE コマンドの実行前) に定義しなければなりません。

- 零の字形

零の字形を指定します。

論理名 ESCJ\$queue name\_ZEROFONT

値       NORMAL       零の字形に '0' を指定します。(省略時設定)  
          WITHSLASH 零の字形に 'Ø' を指定します。

## 論理名

### 3.1 論理名の定義

- フォントタイプ

英数文字に OCR-B フォントを使用するかどうかを指定します。

論理名	ESCJ\$queue name_FONTTYPE	
値	NORMAL	OCR-B フォントを使用しません。(省略時設定)
	OCRB	OCR-B フォントを使用します。

- DEC 漢字

DEC 漢字セット (83 年版または 78 年版) を指定します。

論理名	ESCJ\$queue name_DECKANJI	
値	KANJI83	83 年版 DEC 漢字セット。(省略時設定)
	KANJI78	78 年版 DEC 漢字セット。

- 漢字文字間隔

漢字の文字間隔 (相対または固定) を指定します。

論理名	ESCJ\$queue name_KANJIPITCH	
値	RELATIVE	漢字の文字間隔を相対にします。(省略時設定)
	FIXED	漢字の文字間隔を固定にします。

- 用紙幅

プリンタの用紙幅を指定します。

論理名	ESCJ\$queue name_PAGEWIDTH	
値	136	136 桁を指定します。(省略時設定)
	80	80 桁を指定します。

(この数値は英数カナ 10 CPI 時の桁数です。)

---

## 3.2 TELNET プリント・シンビオントのための論理名

TELNET プリント・シンビオントの管理のために以下の論理名が用意されています。

- コネクション試行間隔



ホストに到達できない場合は、コネクションの試行が3分(省略時設定)ごとに行われます。この省略時の値を変更するには、論理名 ESCJ\$TELNETSYM\_RETRY\_INTERVAL に新しい値を定義します。時刻はデルタ時間を指定します。時刻の指定方法の詳細は、『OpenVMS User's Manual』を参照してください。

例:

```
$ DEFINE /SYSTEM ESCJ$TELNETSYM_RETRY_INTERVAL "0 00:00:30"
```

- アイドル・ドロップ・タイマ

OpenVMS システムは、2分(省略時設定)経過してもアイドル状態であるターミナル・サーバに対するリンクを切断します。

この省略時の値を変更するには、論理名 ESCJ\$TELNETSYM\_IDLE\_TIMEOUT に新しい値を定義します。時刻はデルタ時間を指定します。時刻の指定方法の詳細は、『OpenVMS User's Manual』を参照してください。

例:

```
$ DEFINE /SYSTEM ESCJ$TELNETSYM_IDLE_TIMEOUT "0 00:00:30"
```

- スクラッチ・ディレクトリ

リレー・キュー用の一時ファイルやエラー・メッセージやイベント・メッセージのログ・ファイルを保持するディレクトリを論理名 ESCJ\$TELNETSYM\_SCRATCH で指定します。省略時設定は SYSS\$SPECIFIC:[SYSEXE]です。

例:

```
$ DEFINE /SYSTEM ESCJ$TELNETSYM_SCRATCH SYSDISK:[ESCJSCRATCH]
```

- 詳細ログ

論理名 ESCJ\$TELNETSYM\_VERBOSE を定義することによって詳細ログを利用可能にします。

例:

```
$ DEFINE /SYSTEM ESCJ$TELNETSYM_VERBOSE TRUE
```

- OPCOM メッセージの禁止

## 論理名

### 3.2 TELNET プリント・シンピオントのための論理名

論理名 ESCJ\$TELNETSYM\_NO\_OPCOM を定義することによって OPCOM メッセージを生成しないようにします。

例:

```
$ DEFINE /SYSTEM ESCJ$TELNETSYM_NO_OPCOM TRUE
```

- Raw TCP プロトコルの使用

論理名 ESCJ\$TELNETSYM\_RAW\_TCP を定義することによって、プリンタとの接続に TELNET ではなく、raw TCP を使うことを指定します。

例:

```
$ DEFINE /SYSTEM ESCJ$TELNETSYM_RAW_TCP TRUE
```

---

#### 注意

---

TELNET のキューと raw TCP のキューは、1 つのノードに混在できません。

---

---

## プリンタ・キューの設定

この章では日本語 ESCP トランスレータが提供する 3 つのプリント・シンビオントごとに、プリンタ・キューの設定方法について説明します。各プリンタ・キューの設定は、SYSTEM アカウントなどの特権付きアカウントで行います。

---

### 4.1 ローカル・シリアルポート・プリント・シンビオント

以下に示す手順に従って、ローカル・シリアルポートに接続されたプリンタのプリント・キューを設定するために、システム・スタートアップ・ファイルに記述すべきコマンドを決定してください。この手順を実行する場合は、パラメータ・テーブルの必要な情報を使用してください。

キューのスタートアップ情報は、キュー・スタートアップ・ファイルあるいはシステム・スタートアップ・ファイル (通常 SYSS\$MANAGER:SYSTARTUP\_V5.COM, あるいは OpenVMS VAX バージョン 6.0 以降および OpenVMS Alpha のすべてのバージョンでは SYSS\$MANAGER:SYSTARTUP\_VMS.COM) のいずれかに置かれています。

#### 4.1.1 キュー・スタートアップ情報の作成

この項では、ローカル・シリアルポート・ベースのキューを構成するために、キュー・スタートアップ・ファイルあるいはシステム・スタートアップ・ファイルに記述するコマンドについて説明します。

1. キューのデフォルト・フォームを定義します。

## プリンタ・キューの設定

### 4.1 ローカル・シリアルポート・プリント・シンビオント

例:

```
$ DEFINE/FORM ESCJ_DEFAULT 1 -  
  /NOTRUNCATE/WIDTH=174/MARGIN=BOTTOM=0/STOCK=DEFAULT -  
  /DESCRIPTION="ESCP Trans default"
```

この例では、ESCJ\_DEFAULT はフォーム名で、1 はフォーム番号です。

形式:

```
$ DEFINE/FORM form-name form-number -  
  /WIDTH=174/MARGIN=BOTTOM=0/STOCK=DEFAULT -  
  /DESCRIPTION=string
```

プリンタ・キューには、デフォルトのフォーム定義が必要です。OpenVMS では、各フォームは名前と番号を持っています。フォーム番号を付ける簡便な方法は、使用可能な最も小さいフォーム番号を選ぶことです。

すでに使用しているフォーム番号を表示するには、次のコマンドを使用します。

```
$ SHOW QUEUE/FORM  
  
Form name      Number  Description  
-----  
DEFAULT        0      System-defined default
```

#### 2. OpenVMS ローカル・シリアルポートの属性を設定します。

```
$ SET TERMINAL/NOBROADCAST/EIGHT/PASTHRU/PERMANENT TXA1:
```

この例で、TXA1 は OpenVMS ローカル・シリアルポート名です。

形式:

```
$ SET TERMINAL/NOBROADCAST/EIGHT/PASTHRU/PERMANENT OpenVMS-port-name
```

#### 3. プリント・キューを初期化および起動します。

例:

```
$ INITIALIZE/QUEUE ESCJPR1/START -  
  /PROCESSOR=ESCJ$PRTSMB -  
  /FORM MOUNTED=ESCJ_DEFAULT -  
  /ON=TXA1:
```

この例では、

ESCJPR1 はキュー名です。

ESCJ\_DEFAULT はフォーム名です。

TXA1 は OpenVMS ローカル・シリアルポート名です。

形式:

```
$ INITIALIZE/QUEUE queue-name/START -  
  /PROCESSOR=ESCJ$PRTSMB -  
  /FORM_MOUNTED=form-name -  
  /ON=openvms-port-name
```

INITIALIZE/QUEUE コマンドは、キューがまだ存在していない場合はこれを作成し、キューに名前を付け、その他プロセッサ、マウント・フォーム、ポートなどの必要なものをキューに設定します。

4. キューについての説明を記述します。

次の例では、ESCJPR1 がキュー名で、TXA1 が設定しようとしているローカル・シリアルポート名です。

例:

```
$ SET QUEUE ESCJPR1 -  
  /DESCRIPTION="Gerry's Printer TXA1"
```

形式:

```
$ SET QUEUE queue-name/DESCRIPTION=string
```

SET QUEUE コマンドはキューの属性を変更します。/DESCRIPTION 修飾子には、キューについての情報を記述するための最大 255 文字までの文字列を指定します。

5. キューのデフォルトのジョブ・セパレータおよびフォーム・オプションを設定します。

例:

```
$ SET QUEUE ESCJPR1 -  
  /DEFAULT=(NOFEED,FORM=ESCJ_DEFAULT)
```

この例では、ESCJPR1 はキュー名で、ESCJ\_DEFAULT はフォーム名です。

## プリンタ・キューの設定

### 4.1 ローカル・シリアルポート・プリント・シンビオント

形式:

```
$ SET QUEUE queue-name -  
  /DEFAULT=(option,NOFEED,FORM=form-name)
```

- SET QUEUE コマンドはキューの属性を変更します。/DEFAULT 修飾子は、PRINT コマンドの特定のオプションのデフォルト値を設定します。デフォルト値は、オプションのリストで指定します。
- NOFEED は、プリンタの印字位置がフォームのボトム・マージンに来た場合に、キュー・プロセッサが自動的にフォーム・フィード文字を送信しないようにします。FORM オプションは、特定のフォームを指定しないでジョブが出力された場合のデフォルト・フォームを指定します。オプションについての詳細は、『OpenVMS DCL Dictionary』を参照してください。

これで、キュー名を PRINT コマンドで使用できるようになりました。たとえば、次のコマンドは ESCJPR1 にファイルを送信します。

```
$ PRINT/QUEUE=ESCJPR1 TEST_FILE.TXT
```

PRINT コマンドおよびその修飾子についての詳細は、OpenVMS ドキュメントあるいはオンライン・ヘルプを参照してください。

---

## 4.2 LAT プリント・シンビオント

以下に示す手順に従って、ターミナル・サーバあるいは RapidPrint に接続されたプリンタのプリント・キューを設定するために、システム・スタートアップ・ファイルに記述すべきコマンドを決定してください。この手順を実行する場合は、パラメータ・テーブルの必要な情報を使用してください。

LAT のスタートアップ情報は、通常 LAT スタートアップ・ファイルに置かれています。キューのスタートアップ情報は、キュー・スタートアップ・ファイルあるいはシステム・スタートアップ・ファイル (通常 SYS\$MANAGER:SYSTARTUP\_V5.COM, あるいは OpenVMS VAX バージョン 6.0 以降および OpenVMS Alpha のすべてのバージョンでは SYS\$MANAGER:SYSTARTUP\_VMS.COM) のいずれかに置かれています。

修正しなければならない LAT スタートアップ・ファイルは、システム構成に応じて LAT\$SYSTARTUP.COM あるいは LTLOAD.COM のいずれかです。これらのファイルは、通常 SY\$STARTUP あるいは SY\$MANAGER ディレクトリに置かれています。

SYSTARTUP\_V5.COM (あるいは SYSTARTUP\_VMS.COM) が LTLOAD.COM あるいは LAT\$SYSTARTUP.COM のいずれかを起動し、さらにこれが LAT\$SYSTARTUP.COM を起動することを確認してください。LAT\$SYSTARTUP.COM あるいは LTLOAD.COM ファイルは、DECnet を起動した後に起動しなければなりません。

#### 4.2.1 LAT スタートアップ・ファイルの修正

この項では、LAT スタートアップ・ファイルに記述するコマンドについて説明します。ファイル名は、システム構成に応じて LATLOAD.COM あるいは LAT\$SYSTARTUP.COM のいずれかです。

1. OpenVMS LAT ポートを作成します。

例:

```
$ MCR LATCP CREATE PORT LTA9999
```

この例では、LTA9999 は OpenVMS の LAT ポート名です。

形式:

```
$ MCR LATCP CREATE PORT openvms-port-name
```

LATCP (LAT コントロール・プログラム) の CREATE PORT コマンドは、LAT ノード上の物理ポートに接続する OpenVMS 論理ポートを作成します。

2. OpenVMS LAT ポートを、ターミナル・サーバあるいは RapidPrint のノードおよびポートにマップします。

例:

```
$ MCR LATCP SET PORT LTA9999 -  
  /NODE=LAT_0040AF271155/PORT=PORT_1 -  
  /QUEUED/APPLICATION
```

## プリンタ・キューの設定 4.2 LAT プリント・シンピオント

この例では、

- LTA9999 は OpenVMS LAT ポート名です。
- LAT\_0040AF271155 はターミナル・サーバあるいは RapidPrint の LAT ノード名です。
- PORT\_1 はターミナル・サーバあるいは RapidPrint のポート名です。

形式:

```
$ MCR LATCP SET PORT openvms-port-name -  
  /NODE=lat-node-name/PORT=lat-port-name -  
  /QUEUED/APPLICATION
```

SET PORT コマンドは、OpenVMS 論理ポートを LAT ノード上の物理ポートにマップします。

### 4.2.2 キュー・スタートアップ情報の作成

この項では、ターミナル・サーバあるいは RapidPrint ベースのキューを構成するために、キュー・スタートアップ・ファイルあるいはシステム・スタートアップ・ファイルに記述するコマンドについて説明します。

1. キューのデフォルト・フォームを定義します。

例:

```
$ DEFINE/FORM ESCJ_DEFAULT 1 -  
  /NOTRUNCATE/WIDTH=174/MARGIN=BOTTOM=0/STOCK=DEFAULT -  
  /DESCRIPTION="ESCP Trans default"
```

この例では、ESCJ\_DEFAULT はフォーム名で、1 はフォーム番号です。

形式:

```
$ DEFINE/FORM form-name form-number -  
  /WIDTH=174/MARGIN=BOTTOM=0/STOCK=DEFAULT -  
  /DESCRIPTION=string
```

プリンタ・キューには、デフォルトのフォーム定義が必要です。OpenVMS では、各フォームは名前と番号を持っています。フォーム番号を付ける簡便な方法は、使用可能な最も小さいフォーム番号を選ぶことです。



すでに使用しているフォーム番号を表示するには、次のコマンドを使用します。

```
$ SHOW QUEUE/FORM
```

```
Form name      Number  Description
-----
DEFAULT        0      System-defined default
```

2. OpenVMS LAT ポートの属性を設定します。

```
$ SET TERMINAL/NOBROADCAST/EIGHT/PASTHRU/PERMANENT LTA9999:
```

この例で、LTA9999 は OpenVMS LAT ポート名です。

形式:

```
$ SET TERMINAL/NOBROADCAST/EIGHT/PASTHRU/PERMANENT OpenVMS-port-name
```

3. プリント・キューを初期化および起動します。

例:

```
$ INITIALIZE/QUEUE ESCJPR2/START -
  /PROCESSOR=ESCJ$LATSYM -
  /FORM_MOUNTED=ESCJ_DEFAULT -
  /ON=LTA9999:
```

この例では、

ESCJPR2 はキュー名です。

ESCJ\_DEFAULT はフォーム名です。

LTA9999 は OpenVMS LAT ポート名です。

形式:

```
$ INITIALIZE/QUEUE queue-name/START -
  /PROCESSOR=ESCJ$LATSYM -
  /FORM_MOUNTED=form-name -
  /ON=openvms-port-name
```

INITIALIZE/QUEUE コマンドは、キューがまだ存在していない場合はこれを作成し、キューに名前を付け、その他プロセッサ、マウント・フォーム、ポートなどの必要なものをキューに設定します。

4. キューについての説明を記述します。

次の例では、ESCJPR2 がキュー名で、LAT\_0040AF271155 が設定しようとしているノード名です。

例:

```
$ SET QUEUE ESCJPR2 -  
  /DESCRIPTION="Gerry's Printer LAT_0040AF271155"
```

形式:

```
$ SET QUEUE queue-name/DESCRIPTION=string
```

SET QUEUE コマンドはキューの属性を変更します。/DESCRIPTION 修飾子には、キューについての情報を記述するための最大 255 文字までの文字列を指定します。

5. キューのデフォルトのジョブ・セパレータおよびフォーム・オプションを設定します。

例:

```
$ SET QUEUE ESCJPR2 -  
  /DEFAULT=(NOFEED,FORM=ESCJ_DEFAULT)
```

この例では、ESCJPR2 はキュー名で、ESCJ\_DEFAULT はフォーム名です。

形式:

```
$ SET QUEUE queue-name -  
  /DEFAULT=(option,NOFEED,FORM=form-name)
```

- SET QUEUE コマンドはキューの属性を変更します。/DEFAULT 修飾子は、PRINT コマンドの特定のオプションのデフォルト値を設定します。デフォルト値は、オプションのリストで指定します。
- NOFEED は、プリンタの印字位置がフォームのボトム・マージンに来た場合に、キュー・プロセッサが自動的にフォーム・フィード文字を送信しないようにします。FORM オプションは、特定のフォームを指定しないでジョブが出力された場合のデフォルト・フォームを指定します。オプションについての詳細は、『OpenVMS DCL Dictionary』を参照してください。

これで、キュー名を PRINT コマンドで使用できるようになりました。たとえば、次のコマンドは ESCJPR2 にファイルを送信します。

```
$ PRINT/QUEUE=ESCJPR2 TEST_FILE.TXT
```

PRINT コマンドおよびその修飾子についての詳細は、OpenVMS ドキュメントあるいはオンライン・ヘルプを参照してください。

---

## 4.3 TELNET プリント・シンビオント(ターミナル・サーバ)

以下に示す手順に従って、ターミナル・サーバに接続されたプリンタのプリント・キューを設定するために、システム・スタートアップ・ファイルに記述すべきコマンドを決定してください。この手順を実行する場合は、パラメータ・テーブルの必要な情報を使用してください。

キューのスタートアップ情報は、キュー・スタートアップ・ファイルあるいはシステム・スタートアップ・ファイル(通常 SYSS\$MANAGER:SYSTARTUP\_V5.COM, あるいは OpenVMS VAX バージョン 6.0 以降および OpenVMS Alpha のすべてのバージョンでは SYSS\$MANAGER:SYSTARTUP\_VMS.COM) のいずれかに置かれています。キューのスタートアップは、TELNET を起動した後に起動しなければなりません。

ターミナル・サーバ上での TELNET 経由のプリンタの設定方法については、ターミナル・サーバのマニュアルを参照してください。OpenVMS 上での TELNET の設定方法については、日本語 TCP/IP Service のマニュアルを参照してください。

### 4.3.1 キュー・スタートアップ情報の作成

この項では、ターミナル・サーバ・ベースのキューを構成するために、キュー・スタートアップ・ファイルあるいはシステム・スタートアップ・ファイルに記述するコマンドについて説明します。

1. キューのデフォルト・フォームを定義します。

プリンタ・キューの設定  
4.3 TELNET プリント・シンピオント (ターミナル・サーバ)

例:

```
$ DEFINE/FORM ESCJ_DEFAULT 1 -  
  /NOTRUNCATE/WIDTH=174/MARGIN=BOTTOM=0/STOCK=DEFAULT -  
  /DESCRIPTION="ESCP Trans default"
```

この例では、ESCJ\_DEFAULT はフォーム名で、1 はフォーム番号です。

形式:

```
$ DEFINE/FORM form-name form-number -  
  /WIDTH=174/MARGIN=BOTTOM=0/STOCK=DEFAULT -  
  /DESCRIPTION=string
```

プリンタ・キューには、デフォルトのフォーム定義が必要です。OpenVMS では、各フォームは名前と番号を持っています。フォーム番号を付ける簡便な方法は、使用可能な最も小さいフォーム番号を選ぶことです。

すでに使用しているフォーム番号を表示するには、次のコマンドを使用します。

```
$ SHOW QUEUE/FORM
```

```
Form name   Number  Description  
-----  
DEFAULT      0      System-defined default
```

2. プリント・キューを初期化および起動します。

例:

```
$ INITIALIZE/QUEUE ESCJPR3/START -  
  /PROCESSOR=ESCJ$TELNETSYM -  
  /FORM MOUNTED=ESCJ_DEFAULT -  
  /ON="SERVER:2007"
```

この例では、

ESCJPR3 はキュー名です。

ESCJ\_DEFAULT はフォーム名です。

SERVER はターミナル・サーバの IP ノード名です。

2007 はプリンタが接続されたターミナル・サーバの TCP/IP ポート番号です。

形式:

```
$ INITIALIZE/QUEUE queue-name/START -
  /PROCESSOR=ESCJ$TELNETSYM -
  /FORM_MOUNTED=form-name -
  /ON="Server_ip_nodename:port_number"
```

INITIALIZE/QUEUE コマンドは、キューがまだ存在していない場合はこれを作成し、キューに名前を付け、その他プロセッサ、マウント・フォーム、ポートなどの必要なものをキューに設定します。

3. キューについての説明を記述します。

次の例では、ESCJPR3 がキュー名で、SERVER が設定しようとしているローカル・シリアルポート名です。

例:

```
$ SET QUEUE ESCJPR3 -
  /DESCRIPTION="Gerry's Printer SERVER"
```

形式:

```
$ SET QUEUE queue-name/DESCRIPTION=string
```

SET QUEUE コマンドはキューの属性を変更します。/DESCRIPTION 修飾子には、キューについての情報を記述するための最大 255 文字までの文字列を指定します。

4. キューのデフォルトのジョブ・セパレータおよびフォーム・オプションを設定します。

例:

```
$ SET QUEUE ESCJPR3 -
  /DEFAULT=(NOFEED,FORM=ESCJ_DEFAULT)
```

この例では、ESCJPR3 はキュー名で、ESCJ\_DEFAULT はフォーム名です。

形式:

## プリンタ・キューの設定

### 4.3 TELNET プリント・シンビオント (ターミナル・サーバ)

```
$ SET QUEUE queue-name -  
/DEFAULT=(option,NOFEED,FORM=form-name)
```

- SET QUEUE コマンドはキューの属性を変更します。/DEFAULT 修飾子は、PRINT コマンドの特定のオプションのデフォルト値を設定します。デフォルト値は、オプションのリストで指定します。
- NOFEED は、プリンタの印字位置がフォームのボトム・マージンに来た場合に、キュー・プロセッサが自動的にフォーム・フィード文字を送信しないようにします。FORM オプションは、特定のフォームを指定しないでジョブが出力された場合のデフォルト・フォームを指定します。オプションについての詳細は、『OpenVMS DCL Dictionary』を参照してください。

これで、キュー名を PRINT コマンドで使用できるようになりました。たとえば、次のコマンドは ESCJPR3 にファイルを送信します。

```
$ PRINT/QUEUE=ESCJPR3 TEST_FILE.TXT
```

PRINT コマンドおよびその修飾子についての詳細は、OpenVMS ドキュメントあるいはオンライン・ヘルプを参照してください。

---

## 4.4 TELNET プリント・シンビオント (プリント・サーバ (raw TCP))

以下に示す手順に従って、プリント・サーバに接続されたプリンタのプリント・キューを設定するために、システム・スタートアップ・ファイルに記述すべきコマンドを決定してください。この手順を実行する場合は、パラメータ・テーブルの必要な情報を使用してください。

キューのスタートアップ情報は、キュー・スタートアップ・ファイルあるいはシステム・スタートアップ・ファイル (通常 SYSSMANAGER:SYSTARTUP\_V5.COM, あるいは OpenVMS VAX バージョン 6.0 以降および OpenVMS Alpha のすべてのバージョンでは SYSSMANAGER:SYSTARTUP\_VMS.COM) のいずれかに置かれています。キューのスタートアップは、TELNET を起動した後に起動しなければなりません。

プリント・サーバ上での raw TCP 経由のプリンタの設定方法については、プリント・サーバのマニュアルを参照してください。OpenVMS 上での TELNET の設定方法については、日本語 TCP/IP Service のマニュアルを参照してください。

#### 4.4.1 キュー・スタートアップ情報の作成

この項では、ターミナル・サーバ・ベースのキューを構成するために、キュー・スタートアップ・ファイルあるいはシステム・スタートアップ・ファイルに記述するコマンドについて説明します。

1. キューのデフォルト・フォームを定義します。

例:

```
$ DEFINE/FORM ESCJ_DEFAULT 1 -  
  /NOTRUNCATE/WIDTH=174/MARGIN=BOTTOM=0/STOCK=DEFAULT -  
  /DESCRIPTION="ESCP Trans default"
```

この例では、ESCJ\_DEFAULT はフォーム名で、1 はフォーム番号です。

形式:

```
$ DEFINE/FORM form-name form-number -  
  /WIDTH=174/MARGIN=BOTTOM=0/STOCK=DEFAULT -  
  /DESCRIPTION=string
```

プリンタ・キューには、デフォルトのフォーム定義が必要です。OpenVMS では、各フォームは名前と番号を持っています。フォーム番号を付ける簡便な方法は、使用可能な最も小さいフォーム番号を選ぶことです。

すでに使用しているフォーム番号を表示するには、次のコマンドを使用します。

```
$ SHOW QUEUE/FORM  
  
Form name      Number  Description  
-----  
DEFAULT        0      System-defined default
```

2. TELNET シンピオントを raw TCP モードで動かすため、論理名を定義します。

## プリンタ・キューの設定

### 4.4 TELNET プリント・シンピオント (プリント・サーバ (raw TCP))

例:

```
$ DEFINE /SYSTEM /EXEC ESCJ$TELNETSYM_RAW_TCP TRUE
```

3. プリント・キューを初期化および起動します。

例:

```
$ INITIALIZE/QUEUE ESCJPR3/START -  
  /PROCESSOR=ESCJ$TELNETSYM -  
  /FORM_MOUNTED=ESCJ_DEFAULT -  
  /ON="SERVER:9100"
```

この例では、

ESCJPR3 はキュー名です。

ESCJ\_DEFAULT はフォーム名です。

SERVER はプリント・サーバの IP ノード名です。

9100 はプリンタが接続されたプリント・サーバの TCP/IP ポート番号です。

実際のポート番号は、各プリント・サーバのマニュアルを参照してください。

形式:

```
$ INITIALIZE/QUEUE queue-name/START -  
  /PROCESSOR=ESCJ$TELNETSYM -  
  /FORM_MOUNTED=form-name -  
  /ON="Server_ip_nodename:port_number"
```

INITIALIZE/QUEUE コマンドは、キューがまだ存在していない場合はこれを作成し、名前をキューに付け、その他プロセッサ、マウント・フォーム、ポートなどの必要なものをキューに設定します。

4. キューについての説明を記述します。

次の例では、ESCJPR3 がキュー名で、SERVER が設定しようとしているプリント・サーバ名です。

例:

```
$ SET QUEUE ESCJPR3 -  
  /DESCRIPTION="Gerry's Printer SERVER"
```



形式:

```
$ SET QUEUE queue-name/DESCRIPTION=string
```

SET QUEUE コマンドはキューの属性を変更します。/DESCRIPTION 修飾子には、キューについての情報を記述するための最大 255 文字までの文字列を指定します。

5. キューのデフォルトのジョブ・セパレータおよびフォーム・オプションを設定します。

例:

```
$ SET QUEUE ESCJPR3 -  
  /DEFAULT=(NOFEED,FORM=ESCJ_DEFAULT)
```

この例では、ESCJPR3 はキュー名で、ESCJ\_DEFAULT はフォーム名です。

形式:

```
$ SET QUEUE queue-name -  
  /DEFAULT=(option,NOFEED,FORM=form-name)
```

- SET QUEUE コマンドはキューの属性を変更します。/DEFAULT 修飾子は、PRINT コマンドの特定のオプションのデフォルト値を設定します。デフォルト値は、オプションのリストで指定します。
- NOFEED は、プリンタの印字位置がフォームのボトム・マージンに来た場合に、キュー・プロセッサが自動的にフォーム・フィード文字を送信しないようにします。FORM オプションは、特定のフォームを指定しないでジョブが出力された場合のデフォルト・フォームを指定します。オプションについての詳細は、『OpenVMS DCL Dictionary』を参照してください。

これで、キュー名を PRINT コマンドで使用できるようになりました。たとえば、次のコマンドは ESCJPR3 にファイルを送信します。

```
$ PRINT/QUEUE=ESCJPR3 TEST_FILE.TXT
```

PRINT コマンドおよびその修飾子についての詳細は、OpenVMS ドキュメントあるいはオンライン・ヘルプを参照してください。



---

## PRINT コマンドの/PARAMETERS 修飾子

本章では、日本語 ESCP トランスレータで使用する PRINT コマンドの /PARAMETERS 修飾子について説明します。

---

### 5.1 PRINT コマンド

日本語 ESCP トランスレータは、OpenVMS オペレーティング・システムの PRINT コマンドのすべてのコマンド修飾子をサポートしています。このため、日本語 ESCP トランスレータを使用した環境でのユーザのプリント・オペレーションは、通常の OpenVMS 環境でサポートされているプリンタに印字する場合と同等のオペレーションでできます。

PRINT コマンドの使用例を示します。

```
$ PRINT/QUEUE=que-name file-name.txt
```

また、日本語 ESCP トランスレータの固有な機能に関する設定を行うために、/PARAMETERS 修飾子に以下のパラメータが追加されています。

- ZEROFONT
- FONTTYPE
- DECKANJI
- KANJIPITCH
- PAGEWIDTH

---

注意

---

PRINT コマンドの/PARAMETERS 修飾子にパラメータを指定する方法は下記のようにかっこで囲い、各パラメータはコンマで区切ります。

```
/PARAMETERS=(param1=xxx,param2=xxx,param3=xxx)
```

パラメータを1つしか指定しない場合には、かっこを省略できます。

```
/PARAMETERS=param1=xxx
```

---

追加されたパラメータについての説明を以下に示します。

- ZEROFONT

零の字形 ('0' または '0') を指定します。

形式は以下のとおりです。

```
/PARAMETERS=ZEROFONT=NORMAL      零の字形に '0' を指定します。  
/PARAMETERS=ZEROFONT=WITHSLASH    零の字形に '0' を指定します。
```

ZEROFONT パラメータが省略された場合、論理名 ESCJ\$*que-name*\_ZEROFONT で指定された値が使用されます。論理名 ESCJ\$*que-name*\_ZEROFONT が定義されていない場合、NORMAL が省略時の設定となります。

- FONTTYPE

英数文字に OCR-B フォントを使用するかどうかを指定します。

形式は以下のとおりです。

```
/PARAMETERS=FONTTYPE=NORMAL        OCR-B フォントを使用しません。  
/PARAMETERS=FONTTYPE=OCRB          OCR-B フォントを使用します。
```

FONTTYPE パラメータが省略された場合、論理名 ESCJ\$*que-name*\_FONTTYPE で指定された値が使用されます。論理名 ESCJ\$*que-name*\_FONTTYPE が定義されていない場合、NORMAL が省略時の設定となります。

- DECKANJI

DEC 漢字セット (83 年版または 78 年版) を指定します。

形式は以下のとおりです。

/PARAMETERS=DECKANJI=KANJI78            78 年版 DEC 漢字セット。  
/PARAMETERS=DECKANJI=KANJI83            83 年版 DEC 漢字セット。

DECKANJI パラメータが省略された場合、論理名 ESCJ\$*que-name*\_DECKANJI で指定された値が使用されます。論理名 ESCJ\$*que-name*\_DECKANJI が定義されていない場合、KANJI83 が省略時の設定となります。

- KANJIPITCH

漢字の文字間隔 (相対または固定) を指定します。

形式は以下のとおりです。

/PARAMETERS=KANJIPITCH=RELATIVE        漢字の文字間隔を相対にします。  
/PARAMETERS=KANJIPITCH=FIXED            漢字の文字間隔を固定にします。

KANJIPITCH パラメータが省略された場合、論理名 ESCJ\$*que-name*\_KANJIPITCH で指定された値が使用されます。論理名 ESCJ\$*que-name*\_KANJIPITCH が定義されていない場合、RELATIVE が省略時の設定となります。

- PAGEWIDTH

ESC/P プリンタの用紙幅を指定します。

形式は以下のとおりです。

/PARAMETERS=PAGEWIDTH=*value*

*value* は、ESC/P プリンタの英数カナ 10 CPI のときの印字桁数で 80 または 136 を指定できます。使用する ESC/P プリンタに合わせてください。

PAGEWIDTH パラメータが省略された場合、論理名 ESCJ\$*que-name*\_PAGEWIDTH で指定された値が使用されます。論理名 ESCJ\$*que-name*\_PAGEWIDTH が定義されていない場合、136 が省略時の設定となります。



---

## 日本語 ESCP トランスレータ単体での使用

本章では、日本語 ESCP トランスレータを PRINT コマンドを使用しないで単体で使用方法について説明します。これにより ESC/P に変換されたファイルを得ることができます。

---

### 6.1 シンボルの設定

日本語 ESCP トランスレータを単体でできるようにシンボル名を設定します。

```
$ ESCJ$TRANS == "$SYS$LIBRARY:ESCJ$TRANSSHR.EXE"
```

---

### 6.2 使用方法

入力ファイル名および出力ファイル名とともに、日本語 ESCP トランスレータを実行します。出力ファイル名を省略した場合には SYSS\$OUTPUT に出力されます。

```
$ ESCJ$TRANS [OPTIONS] input-file [output-file]
```

実行時には以下のオプションが指定できます。

- k: DEC漢字セットに78年版を使用します。
- o: 英数文字にOCR-Bフォントを使用します。
- z: 零の字形に '0' を指定します。
- f: 漢字の文字間隔に固定を指定します。
- 8: プリンタの用紙幅を10 CPI時80桁にします。

日本語 ESCP トランスレータ単体での使用  
6.2 使用方法

単体で使用する場合，論理名や/PARAMETER 修飾子による設定の影響は受けません。

---

注意

---

単体使用で出力されたファイルを日本語 ESCP トランスレータで設定されたプリンタ・キューに出力することはできません。トランスレータを2回通すことになり，正常な印字結果になりません。

---



---

## LA88 と日本語 ESCP トランスレータのサポートする制御文字/制御命令の比較

ESCJ がサポートする制御文字/制御命令は以下のとおりです。各制御文字/制御命令の説明は『LA88 ユーザガイド』を参照してください。（サポートされていても LA88 と動作が異なるものがあります。詳しくはリリース・ノートの制限事項を参照してください。）

Mnemonic	Function
BS	Back space
CAN	Cancel
CR	Carriage return
DECAUPSS	Assign UPSS
DECAWM	Auto wrap mode
DECCRNLM	CR new line mode
DECDHLB	Double height line bottom
DECDHLT	Double height line top
DECDWL	Double width line
DECSHORP	Select horizontal pitch
DECSHTS	Set horizontal tab stop
DECSLPP	Set lines per page
DECSLRM	Set left and right margin
DECSTBM	Set top and bottom margin
DECSTR	Soft terminal reset
DECSWL	Single width line
DECVERP	Select vertical pitch
DEL	Delete
FF	Form feed
GSM	Graphic size modification
HT	Horizontal tab
HTS	Horizontal tab set
IND	Index
LF	Line Feed
LNLM	LF new line mode

LA88 と日本語 ESCP トランスレータのサポートする制御文字/制御命令の比較

Mnemonic	Function
LS0 (SI)	Locking shift 0 (Shift in)
LS1 (SO)	Locking shift 1 (Shift out)
LS1R	Locking shift 1 right
LS2	Locking shift 2
LS2R	Locking shift 2 right
LS3	Locking shift 3
LS3R	Locking shift 3 right
NEL	Next line
NUL	Null
PLD	Partial line down
RIS	Reset to initial state
Sixel protocol	
SGR	Select graphic rendition
	Normal
	Bold
	Underline
	Italic
	Reverse
	Vertical
	Double under line
SP	Space
SS2	Single shift 2
SS3	Single shift 3
SUB	Substitute
TBC (0,2,3)	Tab clear
VT	Vertical tab

LA88 と日本語 ESCP トランスレータのサポートする制御文字/制御命令の比較

LA88 ではサポートされているが ESCJ ではサポートされない制御文字/制御命令は以下のとおりです。

Mnemonic	Function
BEL	Bell
CUU	Cursor up
DA(1)	Primary Device attributes
DA(2)	Secondary device attributes
DEC DEN	Select printing density
DEC DRLBR	Draw a ruled line between in pattern
DEC NVR	NVR save/restore
DEC RQUPSS	Request UPSS
DEC TST	Test
DSR	Device status report
PLU	Partial line up
RI	Reverse index
S7C1T	Select 7-bit C1 transmission
S8C1T	Select 8-bit C1 transmission
SGR	Select graphic rendition
	Faint
XOFF	(transmit only)
XON	(transmit only)



# B

---

## 文字セット

日本語 ESCP トランスレータでは下記の文字セットを使用することができます。

- ASCII
- JIS ローマ字
- JIS カタカナ
- DEC 特殊文字
- DEC テクニカル文字
- DEC 補助文字
- ISO Latin-1 補助文字
- ユーザ選択補助文字
- DEC 漢字 (1978 年版 , 1983 年版)

各文字セットの一覧は、『LA88 ユーザガイド』を参照してください。



## トランスレータの初期設定値

表 C-1 初期設定値

設定項目	初期設定値	備考 (関連制御命令など)
文字セット関連		
GL 集合	G0	LS0/LS1/LS2/LS3
GR 集合	G3	LS1R/LS2R/LS3R
G0 集合	JIS ローマ字	SCS
G1 集合	DEC 特殊文字	SCS
G2 集合	カタカナ	SCS
G3 集合	DEC 漢字	SCS
DEC 漢字	1983 年版	†
ユーザ選択補助文字セット	DEC 補助文字	DECAUPSS
英数文字形	標準	†
ゼロ文字形	0	†
文字属性	なし	SGR
書式関連		
CR ニューライン・モード	CR のみ	DECCRNLM
LF ニューライン・モード	LF のみ	LNLM
文字ピッチ	12.86 CPI	DEC SHORP
行ピッチ	6 LPI	DEC VERP
漢字文字ピッチ	相対	†
右マージン処理	オートラップ	DECAWM

†論理名， PRINT コマンドの/PARAMETERS 修飾子，トランスレータ単体使用時のオプションで変更可能。

(次ページに続く)

トランスレータの初期設定値

表 C-1 (続き) 初期設定値

設定項目	初期設定値	備考 (関連制御命令など)
左マージン	1 桁目	DECSLRM
右マージン	174 桁目	DECSLRM
上マージン	1 行目	DECSTBM
下マージン	66 行目	DECSTBM
用紙幅	13.6 インチ	†
用紙長	66 行 (11 インチ)	DEC SLPP

†論理名, PRINT コマンドの/PARAMETERS 修飾子, トランスレータ単体使用時のオプションで変更可能。



日本語 ESCP トランスレータ  
ユーザ・ガイド

---

2002年9月 発行

日本ヒューレット・パッカード株式会社

〒140-8641 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー

電話 (03)5463-6600 (大代表)

---

AA-R4E3B-TE

